貧酸素水塊速報（2022年）

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター　千葉県農林水産技術会議
神奈川県水産技術センター　内湾底びき網研究会連合会
【協力】　千葉県環境研究センター　○ 東京都環境局
第三管区海上保安本部　（国）国立環境研究所
○ モニタリングポスト（海上保安庁，国土交通省 関東地方整備局）
（今回の速報は"○"の機関の観測データを使用して作成しました）

令和4年10月12日観測結果

貧酸素水塊は、内湾中部の一部に分布していました(図1)。縦断ラインの一部では、貝類の生存に影響を及ぼすDOが1.5 ml/L未満の海域も見られました(図2)。

表層水温は20～21℃、底層水温は20～21℃でした。表層と底層の差がほとんどなくなりました。今後はさらに鉛直混合が進み、貧酸素水塊は拡大しにくくなると考えられます。

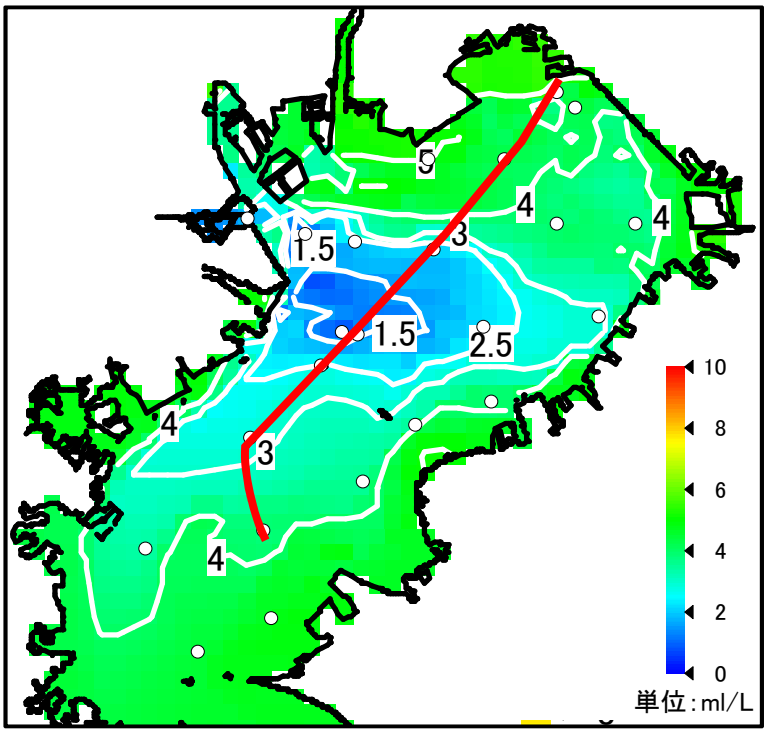

図1　底層の溶存酸素量分布（赤線は縦断ライン）

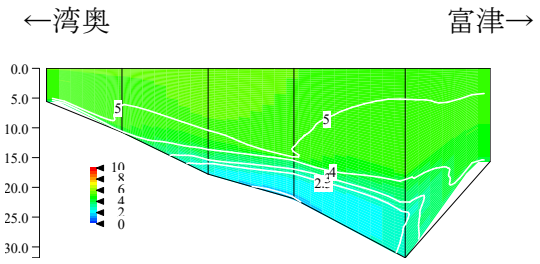

図2　縦断ラインでのDO鉛直分布

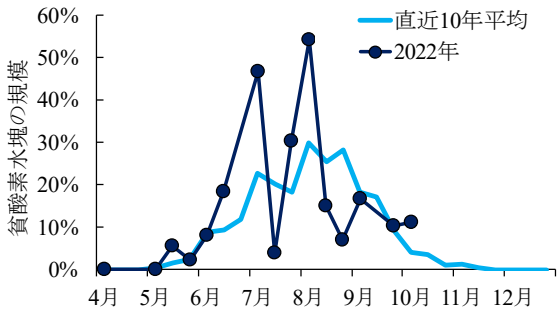

図3　貧酸素水塊の規模
（左図で貧酸素水塊（2.5ml/L以下）が占める割合）

酸素飽和度と溶存酸素量（DO）の目安

酸素飽和度	溶存酸素量	備考
50%	2.5mL/L	貧酸素水塊
30～40%	2.0mL/L	魚類に影響
	1.5mL/L	貝類危険
	1.0mL/L	